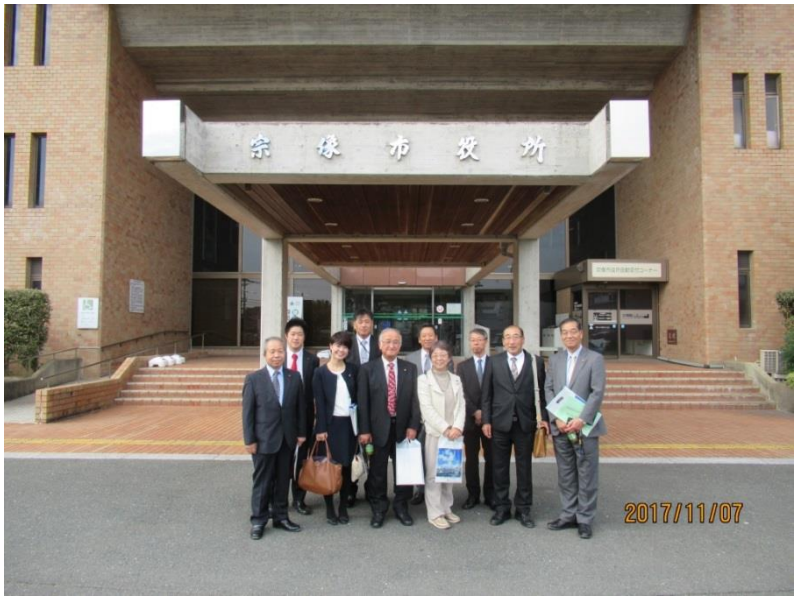
行政視察報告書

厚生環境教育常任委員会
委員長　　山口　真由美

1　日　　に　　ち	平成２９年１１月　７日（火）
2　視　　察　　先	福岡県宗像市　教育委員会　教育こども部　学校管理課 会場：宗像市役所
3　参　　加　　者	厚生環境教育常任委員　８名、教育長、議会事務局書記　１名
4　調　査　内　容	学校給食調理場の「センター方式」から「自校方式」へ転換した経緯と現在の状況についての調査
5　所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	■宗像市の小中学校数と児童生徒数 小学校：15 校　中学校：７校　児童生徒数：7,950 人 ■自校方式とした理由 共同調理場の施設老朽化により、新施設の検討を行った結果、安全性や教育的観点等を総合的に考慮し自校方式へ移行することとした。 前日の下松市の視察での「教育委員会としてファシリティマネジメントや行政改革という観点は入れなかった。」という話を胸に宗像市の自校方式調理場について質疑をさせていただいた。 まず驚いたのが、平成 10 年から 22 年にかけて全ての小学校及び中学校を自校方式の調理場として建設したことである。まさに計画行政である。また、下松市の小学校給食センターの建設費用等は約 22 億円、宗像市の 17 校分の建設費用等は約 25.5 億円であり、宗像市によれば、センター方式と自校方式を比較してもさほど変わらないとのことであった。ただし、施設の老朽化とともに修繕費等はかかるため、自校方式の方が費用がかかるというのはそのことではないかとの説明であった。 また、「将来的にはファシリティマネジメントという観点から自校方式からセンター方式に変えていく可能性はあるのか。」との質疑に対し、「それは考えられない。教育の現場でファシリティマネジメントという考え方をするのは望ましくない。もし、考えるのであれば、子どもの数が少なくなり、学校の統廃合の話が出たときに初めて考えるかもしれない。」との回答であった。これは下松市と同様の考え方であり、教育にファシリティマネジメントという考え方を入れることへの違和感を再度認識させられるとともに、改めて多治見市教育委員会の考え方を問いただす必要があると感じた。

6　写　　真　　等	 

※視察先１件に１枚作成すること。